

新発表

# 葉と葉柄のコントラストが美しい赤紫ミズナ!

タキイ育成 ミズナ

# べに ほう し 紅法師

PVP (登録名: TTU491)



タキイ研究農場  
い で かず お  
井手 一夫



野菜を手軽に簡単にとることのできるサラダは、家庭での調理はもちろん、スーパーやコンビニをはじめ、さまざまに販売・提案されています。レタスやキャベツといった品目に加えて、シャキシャキとした食感と切れ込みの多い葉形が特徴のミズナは、サラダに欠かせない素材としてすっかり定番の品目となりました。

一方で、サラダのアクセントとなる赤や紫色の葉物野菜は、ビーツやリーフレタス

などがあるもののまだ種類が少ないのが現状です。

タキイでは「サラダ向けに新感覚なミズナの育成」をコンセプトに、葉柄部分が鮮やかな赤紫色に着色する特性と、シャキシャキとした食感やくせのない食味、ペビリーフ、青果規格出荷で着色が安定することを目標に、品種育成に取り組んできました。数年間の試作を通じて目標通りの特性を確認し、今回「紅法師」として新発表します。

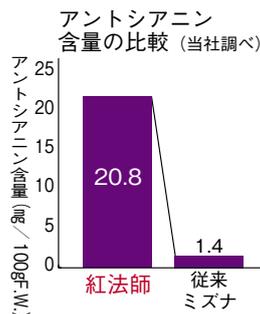
アントシアニンは従来品種の約10倍以上



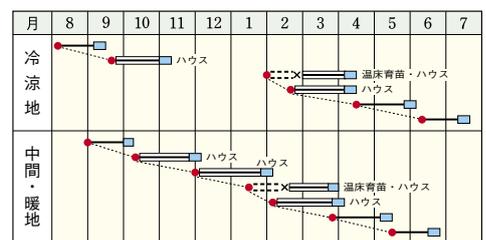
「紅法師」には従来のミズナに比べ、「アントシアニン」が約10倍以上含まれています(低温下ではさらに含量が増加します)。軸が赤紫色に色つき、葉身部に深い欠刻が入るタイプのミズナで、赤紫と緑のコントラストが鮮やかなサラダにぴったりの品種です。シャキシャキとした食感で食味にクセがなく食べやすいミズナです。「アントシアニン」をむだなく生かすために、汁物や鍋料理でも、最後にさっと加えることがおすすめです。

### アントシアニンとは?

ポリフェノールの一種であるアントシアニンは、ワインに含まれる機能成分として有名になりました。ポリフェノールの中には活性酸素を抑える抗酸化性をもつものがあり、その代表がアントシアニンです。



### 「紅法師」栽培適期表



## 品種特性

### ①葉柄が鮮やかに着色する

#### ミズナ

葉柄が鮮やかな赤紫色に色づき、欠缺の入った葉形と分けつ性といったミズナの形態的特長をもっています。春・秋の露地栽培やハウス栽培では、葉身の緑色と葉柄の赤紫色との非常に鮮やかなコントラストとなります。

一般に、紫色（アントシアニン）を含むアブラナ科野菜は、加熱調理した際、色が抜け緑色となりやすいことが知られています。「紅法師」は比較的に赤紫色の色抜けが遅く、短時間の加熱であれば紫色がほんのりと残ります。

### ②シャキシャキとした食感とくせのない食味

従来、赤軸のサラダ野菜としてはビーツ（デトロイト）が広く使われていますが、葉を大きくして収穫するとや



↑ハウスの中でも端側に畝をつくり、光を十分当てることで赤紫色の発色が鮮やかになる。

やアクが出ることで、ベビーリーフとしての利用に限定されてきました。「紅法師」は、40cm程度の収穫サイズでもくせの出ないミズナの特長をもつように育成を進めてきたため、シャキシャキとした食感と食味のよさでサラダ用として利用しやすい品種です。

### ③ベビーリーフから

#### 青果規格まで幅広く対応

用途や出荷形態に合わせて、幅広いサイズでの収穫が可能です。サラダなどの生食用には、葉軸が細くてやわらかく仕上がるため、草丈10〜20cmのベビーリーフから20〜30cmでの小株どりがおすすです。また煮炊きや漬物、炒め物などには葉のポリウムが出る35〜40cmでの出荷をおすすします。

## 栽培ポイント

従来のミズナ栽培に準じて栽培できますが、発色をいかに安定させるかが大切です。「紅法師」の赤紫色の着色はアントシアニンによるもので、太陽光や紫外線、低温、乾燥などのストレスにさらされると含量が増加し、発色はよくなります。そのため安定した発色には、光、気温、風通し、灌水管理が必要です。そこで発色のポイントに絞って説明します。

### ①光を当てる

葉軸の鮮やかな赤紫色の発色には、栽培期間中は葉軸部分に十分光を当てることが必要です。そのため収穫サイズに合わせた条間の設定が重要となります。

ベビーリーフ（草丈10〜20cm）での収穫の場合は、条間15cmを基本とします。株間は1〜2cmで密植となっても構いません。青果規格（30〜40cm）での出荷の場合には、条間20cm、株間5〜7cmとします。

生育後半に葉が込み合い、光が葉軸部分に当たりにくくなると、着色が薄くなったり新しい葉の着色が不足したりする場合があるので、取り遅れに注意してください。

### ②風通しを確保する

ハウス栽培で、草丈20cmを超えるステージからは、日中にハウスサイドを開放し、積極的な換気を行います。冬季などは蒸し込み気味の管理になりますが、「紅法師」はミズナ品種「京みぞれ」などと比べて低温伸長性にすぐれるため、草丈20cmを超えてから強めに換気しても生育は遅れにくい品種です。

営利栽培で1畝に複数条を播種する場合は、畝の外側の条やハウスの端の畝で栽培すると風通しや採光がよく着色が安定しやすくなります。

### ③灌水管理

着色は土壌の乾燥によるストレスでも促進されます。特に生育が旺盛な後半まで十分水がある条件だと、逆に色のりが悪くなることがあるので、生育後半の灌水は控えめに管理します。

### ④高温期の栽培は避ける

高温期の栽培は着色が不安定になりやすく、収穫後の店もち性も不足します。中間地では春どりで6月中旬収穫まで、秋どりで10月初旬からの収穫を目安としてください。

### ミズナ「紅法師」栽培特性メモ

最適播種期（産地レベル）	9月上旬～5月中旬（中間・暖地）	
適播種期（菜園レベル）	9月上旬～10月中旬、3月下旬～5月中旬	
基本の施肥設計（10a当たり）	N：P：K = 8：8：8kg ※通常ミズナ栽培の8割程度の施肥設計で色つきよくなる	
播種基準 （畝幅・条数・条間・株間）	ベビーリーフ（草丈10～20cm）	条間15cm、株間1～2cm
	青果規格（草丈30～40cm）	条間20cm、株間5～7cm
栽培重要ポイント	発色の安定には、光、気温、風通し、灌水管理に気をつける。	